ＳＭＣ金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain　SMC 豊島 健治

張り裂かれる夢と現実

（「仮想商店街の若者達」のその後）

今週１９日、「あの」楽天が店頭市場に株式を登録した。公募価格３，３００万円に対して、４０％安い１，９９０万円で初値がつき、その後買戻されて初日は３，０００万円で取引を終えた。翌２０日には１，０００万円値上がりし４，０００万円となって公募価格を２０％強上回った。

４，０００万円、額面５万円の１株に付けられたこの価格をどう評価すべきか、楽天という名の会社に与えられた市場評価をどう考えるかと問われれば、やはり「高すぎる」と答えざるを得ない。額面５０円に引き直せば４０，０００円である。国際的優良企業であるソニーや京セラよりも遥かに高い価格なのだ。もちろん企業規模や事業内容・発行総株数が違うから表面株価だけで比較するのは不当との謗りを受けようが、「将来への夢や期待」が過大に膨らんだ結果の価格と見て良いと思う。

何故「楽天」という会社の店頭市場登録のことを話題にするかと云えば、この会社に若干の思い出があるからだ。

今から１年半前の９８年１０月、設立１年余のこの会社を東横線祐天寺に訪ねた。ある商店を楽天が運営する楽天市場というバーチャル・モールに出店させようと思って訪ねたのだ。結果としてその計画は実現しなかったが、その時感じた思いや驚きを「仮想商店街の若者達」と題するレポートにまとめて購読者に発信した。そしてレポート購読者から幾つかの反応があり、楽天市場に出店する会社も出てきたりしたのである。

あの時私に応対してくれた方は、大企業をドロップアウトしてこの会社の設立に参じた２０代後半の若者だった。その後何度か電話でも話したこの人の名前や顔は今でも良く覚えているが、この若者は現在楽天社の株式を４８株保有している。１株４，０００万円で評価すれば時価１９億円強の計算となる。

３０歳にもならない若者が短期間にこのような巨額の金融資産を手にする、これが（楽天社だけでなく）現在起こっている経済事象であるが、このことをどう評価するかは極めて重要な問題ではないだろうか。否定的に評価するのか、それとも肯定的に評価するかである。実を云えば、私の中でも評価が分裂している。

１９９７年に設立した若い会社が、あっという間に急成長して株式を公開する。そして創業者や設立参加者がその果実を手にする。当然であるが、その果実があまりにも大きく美味しいからと云って誰に非難される謂れもない。むしろ若き成功者を皆で祝福すべきだと思う。ジャパニーズ・ドリームの体現者として、後に続く若者達の目指すべき手本となって欲しい。

東大を頂点とする有力学校を卒業して著名企業や官僚の世界に身を投じる、それが長く私達を支配した価値観であった。そうした価値観の崩壊は既にあちこちで始まっていたが、この価値観を突き崩すには不祥事など内部からの崩壊だけでは足りない。この楽天に集結した若者達のように、既成の権威を捨て未知なる可能性にチャレンジして成功を収める同世代の出現が必要なのだ。大企業や国家機関に就職した若者達は、おそらく楽天の若者達を、脱落者としてではなく挑戦する同世代として眩しく見つめ始めている。そこにこそ彼ら楽天の最大の功績がある。

とは云え、この「仮想商店街の若者達」の前途は厳しい。厳しい理由は幾つかあるが、一つは高過ぎる株価にある。夢と期待を目一杯膨らませた投資家達の「根拠なき熱狂」に応えることがいかに難しいかをやがて知ることになるだろう。その時株価は急落する。９０％以上の暴落を演じている光通信は今その只中にいる。

もう一つの厳しさは、バーチャル・モール運営会社に４００億円を超える資金が集まったことからやってくる。今期予想売上高が２０億円に過ぎない企業（前期は６億円強）に４００億円の資金が入った時一体何が起こるだろうか。優秀と云われるこの会社の経営者はどのようにこの資金を処理するのだろうか。楽天社の今期末のバランスシートがどうなっているのか興味深い。

そして更に、個人の懐が膨張したことからくる不均衡がやっかいな問題となるだろう。いつの世も、不相応な持ち物は身を崩す元凶となる。１９億円の資産を手にしたあの若者は、今後どのような人生を歩むのであろうか。

「それは宝くじと同じ原理だ」と断じたのは米ＦＲＢグリーンスパン議長であるが、夢や期待の膨張を止めることは誰にも出来ない。願わくば、彼らが夢と現実に押しつぶされないことを。

TEL. 0438−53−6092 FAX. 0438−53−6096
E-mail smc_toyo@hi-ho.ne.jp

《転載・複製等はご連絡下さい》